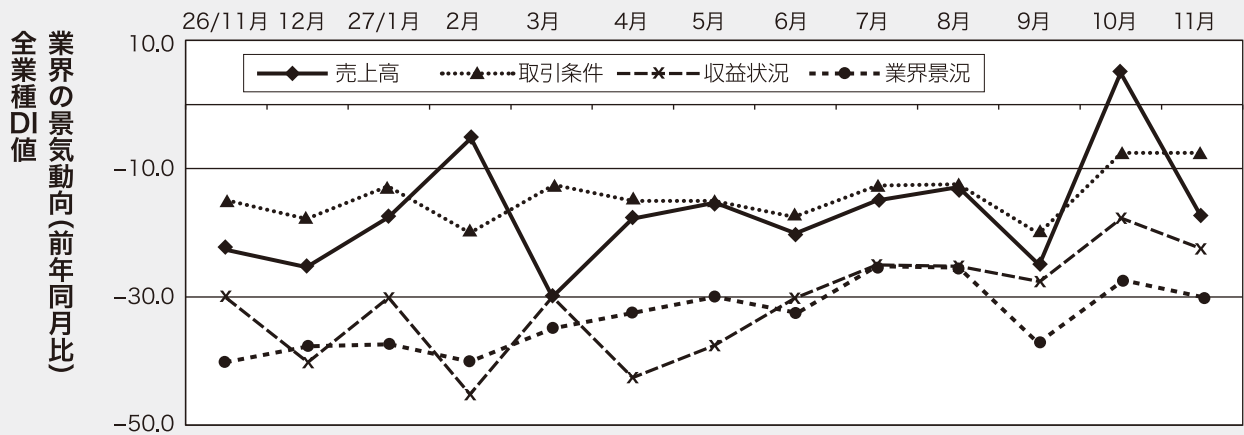


◆ 平成27年11月度 情報連絡員報告 ◆



	26/11月	12月	27/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-22.5	-25.0	-17.5	-5.0	-30.0	-17.5	-15.0	-20.0	-15.0	-12.5	-25.0	5.0	-17.5	-22.5
取引条件	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-12.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5	-7.5	0.0
収益状況	-30.0	-40.0	-30.0	-45.0	-30.0	-42.5	-37.5	-30.0	-25.0	-25.0	-27.5	-17.5	-22.5	-5.0
業界景況	-40.0	-37.5	-37.5	-40.0	-35.0	-32.5	-30.0	-32.5	-25.0	-25.0	-37.5	-27.5	-30.0	-2.5

平成27年11月の前年同月比DI値は前月に比べ、「取引条件」のみ横ばいで、他の全ての項目は悪化した。「売上高」が22.5ポイント悪化し、「収益状況」は5.0ポイント、「業界景況」は2.5ポイント悪化した。11月は例年に比べ暖かい日が多く、「伊賀焼」や「旅館・ホテル業」は好調であったが、反面、「豆腐」、「家電」、「紙器段ボール」等冬物商品を取扱う業種は低調であった。海外の景気の減速が売上にも影響しており、原材料の値上がりを製品価格に転嫁できないとの声もあった。また伊勢志摩サミットへの期待感があるものの、警備等の問題で売上を心配する声もあった。

天候に恵まれ、北勢・中勢は紅葉などで賑わう(旅館)

	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	麺	商品特化を図り、商品の絞り込みをする必要に迫られている。伊勢うどんを業界の柱に取り組む必要がある。今後各種イベントを通して、積極的に売り込んでいく必要があり、伊勢志摩サミットを通して全国に認知してもらえるよう取り組んでいく。
	古紙	11月期の仕入量は前月と変わりなかった。段ボール箱の重さが軽くなっているにも関わらず、流通箱量が増えているようで、段ボール古紙の集荷は落ち込みが少ないようである。新聞雑誌類の集荷は、製品の流通量減少と古紙流通の多様化で相変わらず悪い。
	鍍金	全体の生産量としては、10月とほぼ同様であったが、扱う品物の種類によって増加傾向にあるもの、減少傾向にあるものと違いが出た。中部圏は全国と比べ落ち込みが少なく、安定している。また、半導体関連は10月同様に推移し、この状況がしばらく続きそうである。
	一般機器(南勢)	海外(特に中国)の景気が減速し、売上等に影響しており、不透明感が日増しに強くなってきている。
非製造業	青果	野菜全般は好天に恵まれ、安定して入荷した。果物はみかんが極早生から早生みかんに切り替わり、味も良い。柿は次郎柿、富有柿が安くて美味しい。リンゴはサンふじがやや高値であった。イチゴは気温が高めであったので、順調に生育した。
	石油	11月度の県内ガソリン販売数量は、前年対比 95%前後と10月後半以降より販売が減速している。原油価格等の下落により、店頭販売価格も下がったが、販売数量が伸びていない状況であった。価格が下がっても需要減に歯止めがかからない要因として、ハイブリッド車の普及と軽自動車の利用度が予想以上に多くなっていると思われる。
	飲食業	外食での店選びの情報源としてインターネットを利用するスタイルの定着により、「グルメサイト」や「クチコミ」を多くの消費者が活用している。全国飲食連合会でも、Web サイトによる店舗検索機能を拡充し、特に今後増加する外国人旅行者へのインバウンド対応にも併せ、整備することとしている。
	旅館	今年の秋のシーズンは天候にも恵まれ、北勢・中勢地区は紅葉や、イルミネーションによる集客効果で賑わっていた。またインバウンドの団体客(中国人が多い)が関西で宿泊先が取れず、東名阪道のIC近くのビジネスホテル等は活況を呈していたようである。伊勢志摩地区は昨年より少し低調であった。